

市議会だより

No.63



2021年8月1日発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会・
広報編集
特別委員会



6月定例会、議員賛否
一般質問
総務文教常任委員会
市民福祉常任委員会

P2～3
P4～11
P12
P13

産業建設常任委員会
傍聴席
編集後記・おでかけ市議会・
表彰

P14
P15
P16

■夏まつりの太鼓練習中の
角館こども園5歳児のみなさん



令和3年度一般会計補正予算

補正額 2億1805万円を可決 累計210億950万円に
「プレミアム宿泊支援事業」「感染予防対策支援事業」など、コロナ経済対策を可決

令和3年第3回定例会が6月3日から6月25日までの21日間開催され、新型コロナウイルス感染症対策などを盛り込んだ「令和3年度仙北市一般会計補正予算（3号）（4号）」など、合計13件について審議されました。新型コロナによる経済の落ち込みを支援するため、市内宿泊施設を利用する際に使用できる3,000円の値引券を発行する「プレミアム宿泊支援事業」や、飲食店などが県の認証制度申請のために衛生環境の整備を行う場合の補助制度「感染予防対策支援事業」などが可決されております。

6月定例会 可決・承認された主な議案

- ◇専決処分の承認について（仙北市一般職の給与に関する条例の一部を改正する条例）
- ◇専決処分の承認について（仙北市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例）
- ◇専決処分の承認について（令和2年度仙北市一般会計補正予算 第17号）
- ◇専決処分の承認について（令和3年度仙北市一般会計補正予算 第2号）
- ◇令和3年仙北市一般会計補正予算（第3号）
- ◇令和3年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- ◇令和3年度仙北市生保内財産区特別会計補正予算（第1号）
- ◇仙北市病院事業会計補正予算（第1号）
- ◇令和3年仙北市一般会計補正予算（第4号）
- ◇仙北市議会委員会条例の一部を改正する条例制定について
- ◇仙北市議会会議規則の一部を改正する規則制定について

意見書

- ◇教職員定数改善と義務教育費国庫負担引き上げを求める意見書
- ◇地方財政の充実・強化を求める意見書

議決結果/議員賛否 令和3年 第3回 仙北市議会定例会(招集日:6/3 最終日:6/25)

凡例：賛→賛成、反→反対 退→退席 欠→欠席（議長は法律で定めるケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名 件 名	議決月日	議決結果	蒼生会								市民クラブ				公明党	共産党	無党派	
				小林幸悦	高橋 豪	田口寿宜	八柳良太郎	真崎寿浩	高橋輝彦	武藤義彦	門脇晃幸	稲田 修	伊藤邦彦	阿部則比古	荒木田俊一				小本田隆
議案第58号	令和3年度仙北市一般会計補正予算（第4号）	6/25	可決	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退	賛	賛	賛	賛

*全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

本会議・予算常任委員会 6月定例会で審議された補正予算

補正予算の主な内容

子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費	4,258万円	ひとり親世帯や住民税非課税世帯などに対する支援。 子ども1人あたり5万円
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費	2,506万円	ワクチン接種業務に従事する職員経費やネット予約に関する費用、 バスの借上料など
再生可能エネルギー導入促進事業費	20万円	民間企業による玉川地内での小水力発電への出資金
サテライトオフィス誘致促進事業費 (地方創生推進交付金)	1,288万円	企業のサテライトオフィス誘致とデジタル人材育成のための委託経費
メカ団地等大規模園芸拠点育成事業費 補助金	1,006万円	神代地区のネギの大規模育苗ハウスの整備に対する補助。
農業者研修集会施設管理運営費	2,107万円	雲沢集落センターの屋根の全面改修経費
平福記念美術館冷温水発生機更新事業費	4,946万円	平福記念美術館の冷温水機更新工事
仙北市学校給食応援事業費	2,756万円	新型コロナによる親の経済負担軽減のため、7月～10月の給食費を 減免
仙北市感染予防対策支援事業費補助金	750万円	県の認証制度と連動し衛生環境整備に取り組む飲食店等を支援。 補助上限10万円
2021 仙北市プレミアム宿泊支援事業費	1,058万円	市内の宿泊施設に宿泊する際に使用できる県民限定値引券を独自発行。 1人3,000円×3,000人分

本会議・予算委員会での質疑

小水力発電に出資 その狙いと効果は？

質問 再生可能エネルギー導入支援事業費として玉川地内で民間事業者が行う小水力発電に20万円を出資するが、この狙いと効果を問う。

答弁 市内企業などが出資する「あきた仙北水力発電(株)」により、玉川地内の濁沢に最大出力395kwの濁沢第一発電所、695kwの濁沢第二発電所が建設されるもので、予定では令和4年度の工事着工となる。売電開始は令和6年度以降で、事業期間を40年としている。

今回計画された小水力発電は、国の電力固定買取制度(FIT制度)の活用有無に大きく左右される。計画では、「あきた仙北水力発電(株)」から市に対し、FIT制度期間の20年にわたり、年間約1,100万円、合計2.2億円を地域振興基金として寄付したいとの申し出がある。

市としては、頂いた基金を森林資源の保全、田沢湖再生などの他、市民生活の向上に活用していきたい。

サテライトオフィス誘致促進事業 具体的に何を行うのか？

質問 サテライトオフィス誘致促進事業として1,288万円を計上している

るが、事業の具体的内容を問う。

答弁 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、首都圏企業では地方へのサテライトオフィス設置について注目している。本事業ではこうした企業ニーズを捉え、市内へのサテライトオフィス設置を促進し、若者の雇用機会の確保と定住人口増を目指す。

具体的内容としては、サテライトオフィス誘致戦略の策定と企業のニーズ調査のため、モニターツアーの実施や、「新型モビリティサービス事業化調査・企画委託」として、仙北市における移動の現状と課題を整理し、AIによる運行管理やアプリ等による料金決済等を活用し、テレワークやワーケーションで訪問される方向けのオンデマンド型移動サービス導入について調査したい。

また、「デジタル人材育成研修企画・運営委託」として、最先端技術を活用しサテライトオフィスを設置する企業で活躍できる人材の育成を図りたい。主に高校生や社会人を対象としたデジタル人材育成の研修を実施するほか、小中学生を対象にした研修会、高齢者向けのスマートフォン講座も予定している。期間は令和3年度から5年度までの3年間である。

4選不出馬！先の新聞報道にあったが、 今もその気持ちに変わりはないか

蒼生会 小林 幸悦 議員



市長

3期 12年で市長職を市民の皆さまへお返りする

次期市長選への対応 について

質問 先の新聞報道で、市長は4選への出馬はないとの内容であったが、その気持ちは今の時点でも変わりはないか。また、今後の対応についても伺う。

答弁 私の4期目はない。3期12年で市長職を市民の皆さまにお返りする。首長はマラソンランナーではなく、駅伝競走の一人の走者である。任期中、申し訳の立たない、悔しい、悲しすぎる事案が続いた。しかし、いつも周囲に支



■今期限りでの退任を表明した門脇光浩市長

えられて何とか今日を迎えている。感謝の思いしかない。私の能力を考えると、市長を担えるのは3期が限界である。コロナ禍が収束した後、新しい価値観の時代に突入する。このタイミングで仙北市はトップ交代、人心一新を行うことが最良と判断した。少し早い時期の態度表明だと思ったが、私の表明が次の市長を目指す、その志を持つ人に届き、新リーダーの誕生に少しでも役立てればと願っている。残す任期も全力で公務にあたる。



■コロナ禍で曳山行事はどうか？

曳山会館の建設計画は

質問 伝統、文化、芸能の継承と保存という観点からも、建設に向けた取り組みを続けて頂きたいがどうか。

答弁 令和2年度の公共施設等個別施設計画の全体計画の策定及び第一期個別施設計画の見直しの際には曳山会館（仮称）の建設は引き続き検討を要する案件、という位置づけであった。今後の財政状況等を勘案したい。幾つかの建設候補地の中に旧中町庁舎敷地も挙げられていたが、現在は譲渡の方針であるため、

候補地の再検討を要するものと考えている。

角館のお祭りに関する対応について

質問 角館のお祭りにおける曳山行事への対応について、市当局及び教育委員会の考えを伺う。

答弁 5月に開催のお祭り実行委員会で、市長・危機管理監・医療局長が参与として委嘱を受け、感染症専門医師の助言を頂くことなど提案した。市長として、また市コロナ対策本部長として、市民はもちろん観光客も含めた来訪者の安全確保が第一であると考えている。お祭りをきつかけとしたコロナ感染者は絶対に出さない。お祭りに行政の口出しは不適當ではあるが、安全が危ぶまれる事態が想定される場合は然るべき対応が必要と考えている。

答弁（教育長） 子どもたちの安全安心が第一と考えている。今後、お祭りの形が決まった段階で、臨時校長会を開催し各小中学校で、どのような対応をしていくか検討する。

（門脇晃幸記）

内陸線踏切の事故防止対策を

蒼生会 武藤 義彦 議員



市長 関係機関と協議を続け危機感を持って進める

内陸線の踏切事故対策を

質問 内陸線中村踏切では平成に入って2件の死亡事故が起こっており、この4月にも車の接触事故が発生した。県や事業者との協議状況を伺う。

答弁 4月12日の事故発生後、4月30日、5月28日の両日、内陸縦貫鉄道の吉田社長と面談し地域の要望を伝えた。また、その後、内陸線の取締役会でも同じく対応を協議している。さらに6月4日には、県の猿田副知事にも相談している。

質問 一昨年の鎌足踏切での死亡事故に関する調査報告書では、事故後の措置として、事業者側では注意柵の塗装や踏切警標等を設置したとある。一方で市の対応としては、第4種踏切の第1種化、または廃止について、地元ヒアリングを行うとしていたが実施されたのか。

答弁 一昨年の死亡事故発生後、地元の集落座談会で意見を頂いた。結果的に、踏切廃止では相当な距離を迂回することになるため、今後も安全に留意して踏切を横断したい



■事故が多発する内陸線中村踏切
早期改善を

という考え方に集約された。市ではそれを受け、農繁期前に広報等で注意喚起を行うなどしてきた。

質問 遮断機の無い第4種踏切は全国で約2,600カ所、県内には70カ所あり、そのうち29カ所が内陸線だ。運輸安全委員会でも、廃止または保安設備の整備をすべきとしているが現状を伺う。加えて、整備費の国庫補助についても確認したい。また、先進例としてJR西日本山陰線における半自動式ゲートの設置も紹介するが検討しているかどうか。

答弁 これまで踏切廃止についての協議はなかった。三セク等を対象とした国庫補助としては「鉄道軌道安全輸送設備等整備事業」等がある。中村踏切前後の市道路面への注

意標示や看板設置等、簡易的な整備について現在協議中である。半自動ゲートも調査の上検討したい。今後も危機感を持って進めて行く。

子どもの交通事故防止を

質問 県内では4月中旬まで小中学生の交通事故が過去5年間で最多となっている。市の安全教育を伺う。

答弁（教育長） 本市では、児童生徒の生命、身体の安全と心の健康の確保を最優先事項とし、防災・安全教育の充実に努めている。小学校では4月から5月にかけて交通安全教室が開催され、警察署と連携し、歩行や自転車の安全について指導している。中学校では、4月上旬に自転車点検と安全指導が行われている。また、通学路点検も実施し、改善が必要な場合は各関係機関に要望し改善している。

選挙や確定申告 高齢者の移動手段確保を

質問 この春の知事選で横手市と湯沢市がバスを使った移動期日前投票所を初めて導入

したが、本市の対応について伺う。

答弁（選挙管理委員会事務局長） 移動期日前投票所は、人口減、高齢化による投票所の統廃合によって最寄りの投票所が遠くなるため実施されたものと認識している。移動期日前投票所は、有権者から好評である一方で、通信インフラの確保とその精度が十分ではない可能性があることから、二重投票を招く恐れもある。今後も移動期日前投票所をはじめ、投票所までの送迎サービス等、様々な支援方法を検討する。

質問 確定申告の際も同様に申告会場までの移動対策を検討するべきではないのか。

答弁 運転が困難である方々や体が不自由な方々などは電話等で問い合わせ頂ければ、まず申告が必要かどうかを調べ、必要な場合には申告書を送付して郵送で申告して頂く対応をしている。高齢化によりこうした需要が今後も増加することが想定され、記入方法等を分かりやすくするなどの工夫を重ね対応したい。

（高橋 豪記）

古館野橋の早期完成に向け、 別財源の検討を

市民クラブ 小木田 隆 議員



市長

現在の財源の他に手当てがないか調査をしたい

門脇市政のこれまでの 検証について

質問 40項目のマニフェストを掲げ、市長に就任してから12年。当時、これが全部達成されれば仙北市はどれだけ良くなるのかと感じていた。しかし、徐々に尻すぼみになって来た。市長自身、何点くらいの達成度か。

答弁 これまでに、内部評価、外部評価、市民検討評価の3段階で結果が出ている。そこから数値化したものは、40項目の平均点で5点満点中2.6点であり、市民の皆様からは50点程度の評価を頂いたものと思う。

質問 マニフェスト中の総合産業研究所は一体何をやったのか。

答弁 民間の研究員と市職員チームに、県立大学の教授を所長に迎えた。組織や役割も違う、それが一つになり色々な可能性が開けると思ったが、大変難しかった。多くの努力をして頂いたが、それを1期目の間にしっかり支える事が出来なかった自らを悔やんでいる。

しかし、この後の仙北市の様々なまちづくり、特に農山

村体験協議会等につながる農山村デザイン室は、総合産業研究所から生まれたものであり、海外との交流では大きな成果を上げることが出来た。総合産業の名の通り、手から生れて来る様々なものづくり、福祉の分野やサービス、交流事業、観光事業など、全ての範疇にあると考えていたので、そのような観点からすると多くの成果があったと思う。

質問 神代中央線について、道路の傷みが目立つようになって来ている。古館野橋が出来る前に、道路補修をしなければならなくなると本末転倒である。古館野橋の早期完成に向け、可能であれば辺地債、過疎債を利用する方向で目途をつけるべきではないか。

答弁 (建設部長) 令和2年度に右岸側下部工の工事が終了している。令和3年度は左岸側の橋台の工事にかかり、今年度いっぱい工事予定を見込んでいます。国の社会資本整備総合交付金で行っている事業であるが、これまでの国からの予算配分が低かった。この補助金の付き具合により進めて行く

事になるが、要望額に対する配分率は少しずつ上がって来ている。今後も要望活動を進め、事業費確保に向け頑張っていきたい。

答弁 辺地債は、辺地地域でなければ発行出来ない。あの地域は辺地地域ではないため、基本的に辺地債は使用できない。過疎債については、道路が進展し、橋梁が架かる事で人の往来が進み、その周

辺の過疎がどのくらい改善されるかという事を過疎計画に盛り込めるか決めないかという検討が必要である。しかし、現時点では、社会資本整備総合交付金事業で進めて行く事が財政的なフレームになると思う。その他の手法については、今後調査をさせて頂きたい。

(田口 寿宜 記)



■早期の改修が望まれる神代中央線・古館野橋

18歳までの医療費無料化と課税世帯の窓口負担廃止を

日本共産党 平岡 裕子 議員



市長 早い段階で実施することが適切だと思う

子どもたちの元気な声を響かせるために

質問 コロナ禍の影響もあり

仙北市の出生者数が減少しているが、子育て世代の負担軽減のため、18歳までの医療費無料化と課税世帯への窓口負担を廃止すべきではないか。

答弁 仙北市の昨年度の出生届は、過去最少の86件だった。コロナ禍の影響もあるが、子育て環境や支援メニューに対する不安も感じている。18歳までの医療費無料化と課税世帯の窓口負担の廃止は、来年度以降に実施することが適切だと思う。

質問 本定例会の補正予算で、学校給食の4ヶ月間減免が提案されているが、通年で無料にできないか。

答弁（教育長） 今回は、コロナ禍の経済対策として国の交付金を活用した。急速に進む少子化対策として、給

食費の無償化は大きな効果があると考えているが、年間約8,370万円の給食費を減免する財源確保について検討させて頂きたい。

就学前教育と小学校教育の連携強化について

質問 本定例会の教育行政報告で、幼保と小学校の円滑な連携が重要であり、両者の連携を計画的に行うとあったが、具体的な取り組みについて伺う。



■西明寺小でのにこにこ子ども園（年長組）との交流会

答弁（教育長） 就学前教育の重要性及び幼保と小学校の円滑な連携を重視する私の思いを園長会、校長会で伝えていく。また、小学校の発表会見学や合同でのチューリップ球根植えなど幼児と児童の交流を図るとともに、小学校の授業研究会や保育参観に保育士と教職員が互いに出席するなど、両者の連携を積極的に進めたい。

コロナ禍による家庭の経済支援と持続化について

質問 コロナ禍で困窮している家庭への経済対策として、生理用品を小・中学校で無償配布することは評価するが、現状と配布方法を伺う。

答弁（教育長） 現在、全ての小・中学校が生理用品を保健室に常備しており、年間20人程度の児童・生徒が利用している。今後は、誰でも躊躇なく保健室に貰いに行ける環境を作りたい。

質問 子どもたちが恥ずかしくなく安心して利用できるように、学校のトイレに常備したらどうか。

答弁（教育長） 子どもたちが保健室に行くのを躊躇するよ

うであれば、養護教諭と協議したい。

質問 一般家庭への生理用品の無償提供は考えていないのか。また、コロナ禍収束後も、この事業は継続するのか。

答弁 防災用に備蓄している生理用品を活用し、一般家庭にも無償提供する。コロナ禍だけが原因ではなく、問題の根源は深いものがあり、来年度以降も無償提供を継続する。

デジタル法と自治体の独立性について

質問 5月12日に成立したデジタル改革関連6法や国に応募したスーパーシティ構想は、システムの標準化により国による管理が強化され、自治体の独立性が失われるのではないかと懸念もある。市長の見解を伺う。

答弁 まだ国から具体的な説明がなく、詳細に答弁することは困難であるが、標準システムを導入しても、これまで実施してきた市独自のサービスや自治体の独立性が失われることはない。

（高橋輝彦氏）

財源を生み出すために、公共施設の整理を迅速に

市民クラブ 荒木田 俊一議員



市長

個別施設計画に基づいて施設管理や処分をしていく

公共施設管理計画の進捗状況は

質問 コロナ終息後も税収の落ち込みが予想され、公共施設の管理は市の財政に大きく影響する。財政を考え、より早く対応すべきではないか。

答弁 第1期個別施設計画の変更で、公共施設の処分等を年次計画で進め、遊休財産の処分についても具体化ができるようになった。準備が整った個所から順次公売、事業者募集等を進める。今年度中は、2箇所の公売をしたいと考えている。自主財源の確保、今後の行財政運営のためにも、個別施設計画に基づく計画的な施設管理、処分等を進めることが必要である。

企業誘致造成地の有効活用はいかに

質問 企業誘致に工業団地が必要として造成した田沢湖黒沢工業団地の活用が挫折の連続である。有効に活用する手立てが見えていない。レタス工場以外に声はかかっているのか。

答弁 企業誘致を進める環境整備に力を入れてきたが手ごわさを実感している。今年度

に入って、コールセンター拠点施設の進出意向がある企業から現地訪問を頂いた。しかし、最終候補地まで残ったものの進出には至らなかった。現在、事業中断となっているハレタス田沢湖の植物工場事業の実現を第一に考えたい。

農産物等への鳥獣被害対策を

質問 自然観察会員の方から、最近、イノシシとニホンジカを頻繁に見るようになったと伺っている。既に、田んぼには爪痕があり、我々の住んでいるすぐそばまで来ている。市は人的被害がないと対応しないのか。増えすぎないよう早めに手を打つ必要があるのではないか。

答弁 農林整備課では、鳥獣被害対策実施隊の協力を得ながら、日没後でも実施できる、くくりわなや箱わなを活用した捕獲計画を立てている。ニホンジカ、イノシシの目撃情報も多くなっているため、被害の防止を防ぐ体制を早急に取らなければいけないと考えている。

生保内体育館の修理はどのようになされるのか

質問 屋根の修理と合わせて痛んでいる外壁も修繕した方がよいという提案に対し、市では検討すると答弁している。検討内容を伺う。

答弁 改修事業は現在、設計業務の発注に向けた精査を行っている。外壁に関しては、劣化が目立つ箇所でもあるので塗装などの対応を考えている。

火災報知器設置で死者減少対策を

質問 近年、高齢者のみの家庭で火災による死傷者が増えている。地域ぐるみで声を掛け合わないとは防げない。火災報知器も一定の効果を上げているが設置に至らない家庭もある。残念な事態を防ぐための対策を問う。

答弁 女性消防団員と社会福祉協議会、消防署の三者連携で高齢者世帯の防火診断を行っている。今後も火災予防の啓発に努めていき



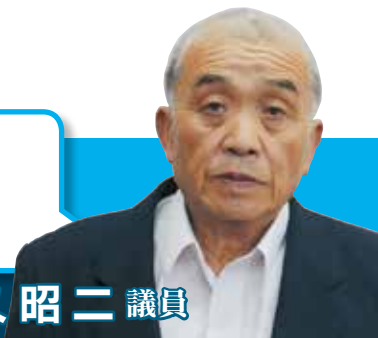
■火災による死傷者を防ぐため、高齢者のみの世帯に火災報知器の設置を求める

たい。
答弁（危機管理監）火災報知器の設置率は増えている状況にあるが、火元は、居間や台所が多いのに対し、義務設置場所は寝室や階段の上となっている。居間と台所は推奨という形である。市ではこれを義務化するための条例整備等について消防署と協議している。また、警報が鳴ったことに気づかない、電池が切れていることなどでも被害が発生している一因であるため、消防と連携して対応していきたい。

（平岡 裕子 記）

クニマス未来館 市長退任前に道筋を

高久 昭二 議員



市長

民間との橋渡し役を今後もしていきたい

クニマス未来館について市長退任前に道筋を付けるべきだ

質問 田沢湖再生やクニマス里帰りの拠点施設として建設した「田沢湖クニマス未来館」を今後どのように活用していくのかについて、10月の退任



■市長はこの生徒たちの視線の先に田沢湖再生の明かりを灯せたか！

までに道筋を付けるべきではないか。

答弁 様々な組織の協力の下、民間との橋渡し役を今後もしていきたい。田沢湖の再生による経済活動を手にすることができないまま退任することは心残りだ。

コロナ禍における更なる経済対策を求める

質問 コロナ不況下にある観光産業、物産、お土産店、飲食店などの事業者への支援策

は他自治体よりも手薄ではないか。

答弁 市が行ってきた経済支援策は市独自のものの他、県や国の事業も含め多様である。仙北市では行っているが他の自治体では行っていないもの、また、その逆もある。現在も新しい支援策を検討しており、今議会中に提案したいと考えている。主な内容は、市民・県民に期間限定で利用頂くツーリズム支援事業、故郷を感じてもらえるような食品などを送る際の送料の助成事業、県と連携し飲食店の県認証制度をサポートする衛生環境整備事業、J・Rと連携した新幹線物流の定期化など複数検討中である。

老朽化が著しい内川橋早期の改修を

質問 角館町松木内川「内川橋」の老朽化により、住民からは早期改修・架け替えの要望が出されているが、市の取り組み状況はどうなっているのか。

また、教育委員会では角館小・中学校の通学路でもあるこの箇所を危険箇所と認識しているのか。

答弁 内川橋は、当初の架設

から58年、増設後から44年経過している。平成28年度に実施した道路、橋定期点検では、橋の健全性の診断判定区分が「2」で、予防保全段階のレベルだった。市ではかねてから国に予算要望をしていたが、令和3年度は、国から「道路メンテナンス補助事業」の内示があり、ようやく事業のスタートとなった。今年度は他の事業も入れて9事業2億210万円を要望し、実際には1億9,325万円の配分となったが、内川橋については補修の詳細設計を行う予定で準備を進めている。

この設計により、実際の工事規模や期間、付属の各添架管の扱い等を示していきたい。

答弁（教育長） 現時点で角館小・中学校が内川橋を危険箇所としているのか定かではないため、後ほど確認して答弁する。

（後日追加答弁） 角館小・中学校ともに、内川橋を注意・指導箇所と認定している。歩行については、横に広がらず一列で、すれ違う際も譲り合うよう注意喚起している。

（荒木田俊一記）

落合球場整備の財源確保は

蒼生会 高橋輝彦 議員

教育長

新過疎計画に載せ、
新過疎債での事業として実現したい

内陸線中村踏切の安全対策について

質問 見通しの悪い下り列車（9本）を、中村踏切手前で徐行運転できないか。

答弁 内陸線によると徐行運転は可能であるが、徐行によつて安全性がどれほど向上するか検討したいとのことである。何よりも運転者の注意喚起が一番重要だという認識である。

質問 踏切に接する道路の一時停止ラインが消えかかっているが、目立つ色で広くペイントしてはどうか。

答弁 道路へのペイントなど補助的な対策はもちろん実施するが、4月の衝突事故のように、踏切には遮断機や警報器が当然あるものと思ひ込んでいることへの対策が必要である。

がんの早期発見・早期治療の推進について

質問 市が助成しているがん検診に、頭部CT検査と腹部CT検査を追加できないか。

答弁 肺がん・乳がん等のがん検診は、検診により死亡率を確実に下げるといふ確固たる

医学的なエビデンスが確立されており、国の指針で早期発見、早期治療につながるとして推奨され、市が実施している。頭部・腹部CT検査は、受診者にとつて、放射線による被爆や造影剤によるアレルギー等の不利益が大きいことから、がん検診にはそぐわないとされている。

門脇市長3期目における一般質問の確認について

質問 JR角館駅の東西自由通路整備事業はどうなるか。

答弁 内川橋完了後に取組む事業としているが、2月にJR秋田支社長と面談し、補助金の動向等について話をしていく。本日の夕方に支社長と面談し、内川橋の補強補修事業の補助金配分が決定したことにより、橋の事業が本格的に動き出すことを報告する。

質問 秋田新幹線の全列車を角館駅と田沢湖駅に停車させる取組みは。

答弁 全列車停車については繰返し要望してきたが、JR秋田支社では東京から秋田までの最速便運転を生命線としており、仙北市だけでなく県全体の便益と利益を考える必



■スコアボードの電光掲示板化や、球場内にある危険な柱を撤去するなどの全面的改修が望まれている落合球場。

要がある。
質問 落合球場整備事業の財源確保は。

答弁 新過疎法が制定となり、落合球場整備事業を事業計画として掲載する作業をしている。厳しい財政状況であるが、財源の確保、事業内容の精査を進めながら事業進捗に努力する。

質問 田沢湖庁舎の冷房設備の設置は可能か。

答弁 FF式冷暖房エアコンや寒冷地仕様エアコン等を庁内で比較検討している。今年度中に策定計画を完了し、来年度予算に反映させたい。

（武藤義彦記）

用語解説

・エビデンス…症例に対して効果があることを示す根拠、証拠

事業継続支援金の交付はできないか

蒼生会 田口 寿宜 議員

市長

協議には入っていない 国の制度をスムーズに活用できるようにしていく

コロナ禍の現状とアフターコロナを見据えて

質問 コロナ禍で苦しんでいるが、国・県の支援から漏れている事業者に対し、昨年のような事業継続支援金の交付はできないか伺う。

答弁 直接交付するという協議には入っていない。市のプレミアム商品券事業、プレミアム観光支援事業は7月に行う予定だ。加えて、確実にワクチン接種を進める事が経済対策につながると思う。

国では月次支援金制度により中小法人等に月20万円、個人事業主には月10万円を支援している。

まずは、国の制度をスムーズに活用できるように市商工会、商工課で相談に当たっていく。



■コロナ禍で閑散とした武家屋敷通り

質問 観光は非常に厳しい状況が続いている。そのような中で、新たな旅の形の提案やアウトドア、自然環境を生かした取り組み等前向きなものが出来ている。これまでの常識が覆された今こそ、アフターコロナの観光産業のあり方を示し、第2次観光振興計画の見直しを図るべきではないか。

答弁 観光客は、密を避け、安全・安心を意識した新しい

旅のスタイルを求めている。アウトドアアクティビティの提供などは新たな旅の重要なパーツであると思う。計画の策定時から4年が経過し大きな環境の変化があった。新しい首長を迎える早い段階での方向性見直しが適切と考えている。

質問 今後コロナを上回るウイルス感染症が起り得る可能性もある。市として「新型コロナウイルス感染症対策条例」の制定を検討する考えはないか。

答弁 こうした条例は、政令指定都市の他、緊急事態宣言及びまん延防止措置の指定地域において、都道府県単位で制定されているとの情報を得ている。感染症対策の公益性や目的等を考えると県条例などが適切だと考える。

人口減少の抑制に向けて

質問 人口減少の抑制に向けては特効薬がないのが事実である。市長の言う「定住の循環」の考え方を示して頂きたい。

答弁 定住の循環のスタートは働く場所を見つける事。現金収入があり、そこに住み、

結婚して子どもが生まれる。そこで、子育てや教育、医療・福祉の環境を充実していくというように施策が進化していく。これが「定住の循環」だ。

しかし、今後は少し変化してくることを想定している。第2期仙北市総合戦略では、SDGs未来都市として「市民の誰一人取り残さないまちづくり」を進める事になっている。

新型コロナウイルスの影響で企業の働き方改革が進んでいる他、地方で収入を確保しながら生活をするスタイルの確立へ社会全体が大きくシフトしている。こうしたことから、アフターコロナにおいては、これまでの定住概念が少し変わってくるのではないかと考える。

素晴らしい資源に恵まれた仙北市の人口減少を抑え、定住人口を増やしたいという思いは変わらないが、行政と協働のまちづくりを進めるもう一方の担い手は市民である。市民の方々が、どういうまちづくりを進めていくのが今後一層重要となる。

(熊谷 一夫 記)

総務文教常任委員会

サテライトオフィス誘致により、 定住人口増と地域課題の解決をめざす

6月定例会、総務文教常任委員会では、令和3年度一般会計補正予算や生保内財産区特別会計補正予算などが審査されました。

令和3年度 一般会計補正予算 主な内容

サテライトオフィス誘致促進事業費	1,288万円	サテライトオフィスの誘致やデジタル人材の育成等の委託事業
せんぼくこまくさプラン事業費	28万円	家庭の事情により生理用品の準備が難しい児童生徒に無償配布を行う
花いっぱい運動推進事業費	▲298万円	一斉植栽中止による減額
平福記念美術館冷温水発生機更新事業費	4,946万円	平福記念美術館の冷温水発生機の更新
修学旅行支援事業費補助金	27万円	小中学校の修学旅行の貸切バス経費など
仙北市学校給食応援事業費	2,756万円	学校給食費の減免（7月～10月）

ここが知りたい 議論のポイント

一般会計補正予算の主な質疑

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について

質問 学校給食応援事業や修学旅行貸し切りバスの補助の他に、水沢第二砂防堰堤へのボルダリング設備設置に充当しているようだが、新型コロナウイルス感染症対策以外にも活用可能なのか？

答弁 昨年度も、生保内公園や湯前山公園にベンチ等を設置している。本交付金については、アフターコロナを見据えた経済対策や地域支援にも活用可能である。

サテライトオフィス誘致促進事業費について

質問 令和5年までの3カ年計画で、三つの企画を委託するとしているが経費以上の効果は見込まれるのか？

答弁 事業計画にも掲げているが、最低でも1件はサテライトオフィスを誘致したい。テレワークやワーケーション誘致とも連携して、首都圏の企業が仙北市に拠点を置き、

就労することによって定住人口を増やしていく取り組みをしたい。さらに雇用につながることであれば経費以上の効果があると考えている。

修学旅行費支援事業費補助金について

質問 修学旅行のコロナウイルス感染防止の具体的対策とは何か。また、全ての学校が修学旅行を実施するのか？

答弁 感染防止対策として、全校が貸し切りバスを利用することにした。小規模校の一人当たりの負担が大きいことから補助することとし、感染拡大した場合の中止によるキャンセル料も計上した。小中学校の修学旅行は、6月下旬を皮切りに11月までに全ての学校が実施に向けて計画している。

「せんぼくこまくさプラン」事業費について

質問 保健室での生理用品受け取りに躊躇する児童生徒もいると思うが、トイレへの常設は考えているのか？

答弁 この事業については、児童生徒が衛生的に使いやすく利用できることを考えている。トイレの常設についても、各学校で位置や間取りが違っているので、先生方と相談し各学校

に合った形で進めたい。

平福記念美術館冷温水発生機更新事業費について

質問 5千万円近くもする冷温水発生機とはどんな機械なのか。また、平成22年に中規模修理した際に、10年後には機器交換が必要とのことであったが、何故当初予算に盛り込まれなかったのか？

答弁 冷温水発生機は、灯油または重油を燃やして、温水・冷水を発生させ全館の冷暖房を行う設備である。市の大規模な文化施設である市民会館や総合情報センターでも同様の設備を使用している。設備更新の予算については、数年にわたり当初予算で要望していたが、全体の優先順位の中で故障した場合には修繕で対応することになった。



冷温水発生機が更新される
平福記念美術館

市民福祉常任委員会

コロナ対策「子育て世帯生活支援特別給付金」に 2,030万円

6月定例会の市民福祉常任委員会では、令和3年度一般会計補正予算などが審査されました。コロナ禍の経済支援対策として、ひとり親世帯以外で、住民税非課税世帯やコロナの影響により著しく減収したお子さんの養育者に、「子育て世帯生活支援特別給付金」が支給されます。

令和3年度 一般会計補正予算 主な内容

通知カード・個人番号カード関連事業費	189万円	戸籍附票システムをコンビニ交付できるようにする。印字プリンタ購入費用
温泉休養施設管理運営費	122万円	西木温泉クリオン看板修理費用
子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費	2,030万円	低所得子育て世帯生活支援特別給付のための費用
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費	1,094万円	64歳以下のワクチン接種に関わる費用
国民健康保険特別会計神代施設診療施設勘定繰出金	302万円	国民健康保険特別会計神代施設診療施設運営に係る繰出金の追加

令和3年度仙北市病院事業会計補正予算 ～新型コロナ患者対応の医師等に慰労金支給へ～

質問 新型コロナウイルス感染症の入院治療を行った医療従事者に対する慰労金として260万円の補正予算が計上されているが、対象人数と支給基準について伺う。

答弁 令和2年7月1日から令和3年3月31日までの間に、直接従事した、医師1名、感染対策に関する専門看護師1名、看護師11名の合計13名である。一人当たり20万円を支給する



■クリオン看板が強風で破損
早い修繕対応を求める

ここが知りたい 議論のポイント

一般会計補正予算の主な質

戸籍住民基本台帳費マイ
ナンバーカードプリンタ
の購入について

質問 マイナンバーカードの
印字プリンタの不具合があり
購入したいとのことだが、台
数は何台か。いつから使っ
たのか。高額ではないか。

答弁 台数は1台である。平
成27年10月から使用していた。
前は40万円ほどであったが、

今回は5年間の訪問修理（税
抜き19万5千円）が入った金
額となっている。

クリオンの看板修理 いつ
までに行うのか

質問 クリオンの総合看板の
上部が破損し、危険な状態に
あるということだが、いつ頃
まで修繕をするのか。

答弁 補正予算が通り次第契
約を進め、できるだけ早めに
対応したい。修繕については、
大規模ではなく上部の剥がれ
ているところを交換するなど
緊急性をもって対応したい。

子育て世帯生活支援特別
給付金給付事業費（ひと
り親世帯以外分）交付金
申請方法は

質問 対象児童一人当たり一
律5万円で328人分の予算
となっているが、実際の申請
はどのようになるのか。

答弁 令和3年4月分の児童
手当、または特別児童手当の
受給者で、令和3年度分の住
民税（均等割）が非課税の方
は申請がいらぬ。これ以外
にも、コロナの影響により収
入が減った場合なども対象と
するが、申請が必要であり窓
口で対応したい。

産業建設常任委員会

ネギのメガ団地へ1,006万円 角館町割400年事業はコロナにより延期へ

産業建設常任委員会では令和3年度一般会計補正予算などについて審査しました。ネギの大規模園芸拠点施設に対する補助1,006万円や角館町割400年事業の延期による減額予算などが提案されました。

令和3年度 一般会計補正予算の主な内容

産地パワーアップ事業費補助金	△2,863万円	国の3次補正により令和2年度補正予算計上のための減額
強い農業・担い手づくり総合支援事業費補助金	△1,952万円	国の3次補正により令和2年度補正予算計上のための減額
メガ団地等大規模園芸拠点育成事業費補助金	1,006万円	ネギの育苗ハウス増棟による補助
多面的機能支払交付金事業費	422万円	新規の組織の活動面積確定に伴い補助額決定による補助
農林業者研修集合施設管理運営費	2,106万円	雲沢集落センター屋根の全面改修に伴う経費
花葉館施設整備事業費	292万円	電気配線工事及び事務所エアコン更新費用
観光施設維持管理費	330万円	水沢第2砂防堰堤の側面にボルダリングウォール設置費用
地域おこし企業人交流プログラム事業費負担金	280万円	日本航空社員1名を仙北市に受け入れ交流人口の拡大に向けていろいろな事業に取り組む。
角館町割400年記念事業費	△173万円	開催を来年度へ延期することによる減額
FIS フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会負担金	2,715万円	来年2月26～27日を開催予定として大会の準備を進める組織委員会に対し事業費を負担する

意見 現在はコロナウイルスの感染状況を気にする必要があるが、来年度の開催時にはワクチン接種も終わっていることから、華やかな雰囲気、角館の伝統文化をしっかりと皆様に広め、伝えていけるような形で開催を期待する。

答弁 記念行事の延期については、歴史的に興味のある方からも問い合わせをいただいている。令和4年度の開催まで、1年あるので準備の時間に充てる。講義についても、芦名家のことに限らず、芦名家のことも講義をいただく予定としており、令和4年度の開催に向けた準備に取り組む。

質問 来年度へ延期することによる減額であり、市民の方からは、非常に残念だとする声を聞くが、来年度の開催に向けた対応はどうか。

一般会計補正予算の主な質疑

ここが知りたい
議論のポイント

文化財保護費（角館町割400年記念事業費）



■角館町割400年記念事業はコロナにより来年度への延期が決定した（角館町割図）



■神代地区に整備されるネギの大規模育苗施設建設予定地（建物手前）

傍聴席の声

市議会一般質問を傍聴した方々の声を掲載します。

6月定例会では市役所研修の一環として新人職員の方々が多く傍聴されていたことから、3名の方々の感想をご紹介します。

総務部税務課 主事 おおいし ひゅうが
大石 日向

この度の議会見学を通じて、議員の方々と門脇市長が様々な視点から仙北市の課題を議論しているところを傍聴し、自分の視野の狭さを感じた。

私は仙北市の課題といえば人口減少やコロナウイルスによる不況の中の観光への取り組みなどが真っ先に思いつく。しかし、議員の方々は市民の安全のことに対しての質問や提案が多く挙げられた。我々の仕事は、市民のことを第一に考慮しなければならないことに気付かされた。

また、門脇市長の「定住の循環」の考えを拝聴し、加速していく人口減少に歯止めをかけるため、仙北市の人口減少についてより深く考えたいと改めて感じた。

研修を終え、市職員として仙北市の発展のため、様々なところに注目していかなければならないと思った。これからの業務ではより市民の声に耳を傾けていきたい。

建設部上下水道課 主事 たかはし ひとみ
高橋 眸

議場が田沢湖庁舎内にあり、とても身近な存在であることに驚きました。また、議会中はタブレットで資料を読んでおり、議会もIT化が進んでいる事にも驚きました。一般質問の答弁は口答で行われ、数字などは分かりにくく感じました。資料をタブレットで表示できるならば、傍聴席にもモニターなどを設置し、具体的な数字や表などの資料を表示できれば一般の傍聴者にもとても分かりやすくなるのではないかと思います。

一般質問の答弁を聞いて、改めて市役所の仕事は多岐にわたっていることを実感しました。議会を通して市の事業が明らかになり、それに対する意見が出ることで、事業が良い方向に進んでいく様子が見学でき、良い経験だったと思います。さらに、市役所の仕事が還元されている事を知る機会にもなりました。今後、議会が開催される時には議事内容等に関心を持つようにしたいと思います。

総務部地方創生・総合戦略室 主査 いとう みつあき
伊藤 潤秋

令和3年度第3回仙北市議会定例会の一般質問傍聴研修では、市施策の進行状況や将来に対する方針等の市政全般に係る一般質問について、議会中継の動画では分からない、市議会議員と市長等との間で行われる質疑応答の様子を議場で間近に見ることができた。

各議員の質問は、我々の身近な事項であり、市職員として、また、一市民として興味深かった。内容は、新型コロナウイルス感染症、伝統文化の保存・継承、橋梁等のインフラ整備、交通安全対策、就学前教育と小学校教育の連携強化等と多岐にわたっており、質問される市議会議員は、関連法規や先行事例の調査等、十分に準備された上で議会に臨んでいるのが分かった。我々市職員が行っている業務が、市長等の回答に影響するということを目の当たりにして、改めて日々の取り組みの大切さを認識することができた。

議会の改革

議会会議規則に 出産・育児・介護等による 欠席事由を明文化

地方議員のなり手不足が全国的な課題となっておりますが、6月定例会では若い世代や女性の方々が、出産育児、家庭、介護等と両立して議員活動が可能となるよう会議規則を変更しました。これまで議会を欠席できる場合は「事故のため」と規定されていましたが、これを出産や育児、介護などでも正式に休暇が取れるよう規定を見直し、規則に明文化しています。

議会もはんこレスへ前進 請願書は署名のみでOKに

国による押印廃止の政策動向を踏まえ、議会に提出される請願書は印鑑が不要となるよう規則を変更しました。今後は署名のみでの提出が可能となります。

全国市議会 議長会表彰

6月定例会では全国市議会議長会により3名の議員に永年勤続表彰が授与されました。

在職20年表彰

八柳 良太郎 議員

在職15年表彰

荒木田 俊一 議員
田口 寿宜 議員



お知らせ おでかけ市議会の 休止について

「おでかけ市議会」は新型コロナウイルス感染防止の観点から、当面の間休止しておりますのでご了承願います。

●お問合せ先…仙北市議会事務局 TEL0187-43-0334

編集後記

6月定例会前に現職市長不出馬の報道があり、一般質問で正式に不出馬を表明しました。いつもとは少し雰囲気の違いが議論が展開された議会となりました。

市民の皆様の生活が豊かになるよう、そして、仙北市が前進して行く上でも、行政にはある程度の継続性が求められます。財政状況が厳しさを増す中、何を選択し集中して取り組んでいくのか、議会の果たすチェック機能や政策提言がこれまで以上に重要になって来ます。気を引き締めて日々頑張らねば。

新型コロナウイルス感染症が未だに猛威を振っており、ワクチン接種も進んでいますが、当初の予定より遅れて終了する状況になってしまいました。観光産業がメインの本市にとって、非常に苦しい時間が1年以上続いています。ワクチンの普及で僅かな希望の光が見えて来ましたが、もう少しの辛抱。この状況を乗り切る為に、切れ目のない経済支援対策が求められます。コロナの退散を強く願う日々です。

(田口 寿宜記)